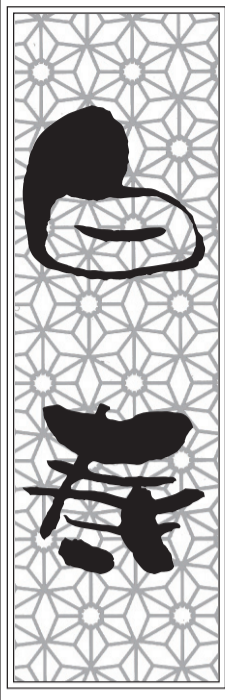


令和2年度 藤崎町老人クラブ連合会 収支決算報告

Table with financial data for FY2021, including income and expense sections with item descriptions and amounts.

総会に代わる理事会開催
藤崎町老人クラブ連合会
4月17日(出)、午前10時から町文化センター多目的ホールで理事会を開催...

今回の理事会は、コロナ感染拡大防止のため定時総会開催を見合わせ、書面で意見を集約し、総会の決議とすため開催した。
1 会長挨拶
お忙しい中、ご出席ありがとうございます。
コロナが落ち着くと思っておりましたが、今また変異株の感染も加わり心配しています...



発行者
藤崎町老人クラブ連合会
広報委員会
藤崎町老人福祉センター内
電話 七五―三三三―



令和3年度 主な行事計画
Table listing monthly activities from May to September, including golf tournaments, general assemblies, and sports events.

久保田整 福祉課長から
新型コロナウイルスス・ワクチン配付の状況とワクチン接種予行演習実施について、説明と参加のお願いがあった。
○閉会 10時40分に閉会した。
○会議終了後、



いと説明があります。一日も早くワクチンの接種を受けてコロナが終息し、活動ができるように「友愛・健康・奉仕」この精神のもと、「楽しい老人クラブ」でいきたいと思います。よろしくお願ひします。
2 議長選出 会則により会長が議長で議事を進行
3 監査報告 吉田兼男監事より報告
4 議案の審議
議案第1号 令和2年度事業報告・議案第2号令和2年度収支決算について、及び議案第3号事業計画(案)・議案第4号令和3年度収支予算(案)について、関連があるので一括で審議をお願いし、全議案満場一致で可決した。(表を参照)

5月行事予定表
Table with columns for date, day of the week, event name, and time.

◆年間活動状況
五月 藤崎交流大会(町チャレンジデー協賛)
六月 町老連大会主管
八月 板柳協会と交流大会・懇親会
九月 男女ベアマッチ大会主催
十月 町民大会主催
十一月 芝生 玉納め会(競技と懇親会)
六月〜十月迄 小学校クラブ指導。
子供教室講師

グラウンド・ゴルフ部紹介
部員数 五三名(令和2年度)
部長 佐藤 昭夫(2年4月より)
連絡先 常盤 佐藤昭夫 六五―三三三―
練習日 夏期 藤崎 北山勝芳 七五―四三六二
西豊田公園(火・木・土) 午前中
福島公園 原則毎日 午前中
冬期(12月〜3月) スポーツプラザ藤崎

新入学の時期に当たり、新入学児童を交通事故から守り、正しい「交通ルール」と「交通マナー」を習慣づけることを目的とした「交通安全実地指導」を今年も4月8日、9日、12日の三日間、老人クラブ会員を中心に実施することになりました。
藤崎地区は「藤崎小学校」を対象に、伝馬喜楽会(佐々木トミエ会長)の皆さんが、藤崎駅前交差点で、常盤地区は常盤小学校を対象に若柳健柳会(柳佳子会長)と館山新一老連会長が旧常盤支所跡地前のT字路で実施しました。
9日は珍しく春の雪となりましたが、元気に挨拶を交わしながら、新入学児童一人ひとりが車に気をつけて、交通事故に遭わないよう交通安全を呼びかけ、交通ルール・マナー等の指導を実施しました。



新入学児童に対する交通安全指導実施
藤崎町老人クラブ連合会
新入学の時期に当たり、新入学児童を交通事故から守り、正しい「交通ルール」と「交通マナー」を習慣づけることを目的とした「交通安全実地指導」を今年も4月8日、9日、12日の三日間、老人クラブ会員を中心に実施することになりました。





### 先輩に学ぶ 旧藤崎町老連文集「白寿」から 第一号 昭和57年度 (11)

休耕田して、二年連続の凶作を省みてく減らしたる一町歩あまりの田を畑に変え  
林檎と葡萄を吾植糸にけり  
一年の米の収量百余り  
儀犠牲にしつつ八年経にけり  
田仕事の合間に吾は畑に来て  
林檎と葡萄の手入れ行ふ  
薬剤も林檎と葡萄異なれば  
散布するにも手間が掛かるも  
葡萄の木に穴掘り虫寄るを  
防ぎ根元の草取り除く  
アメリカより新種の葡萄スチューベンの  
苗購ひて吾が畑に植ふ  
矮性の林檎苗ゆえ枝低めて  
以前と異なる剪定をする  
葡萄の粒揃へむ為器具持ちて  
小粒なる実をみな除きけり  
椋鳥が葡萄へ来るを防がむと  
大網を張る畑一面に  
葡萄の美食はむと来たる椋鳥ら  
網にかかりて骸を残す  
日照り無く冷たき偏東風吹き  
稲の生育遅れ気遣ふ  
豪雨降り出水に低き田の稲は  
湖にも似たる灌水に遭ふ  
日々曇り穂いずるとこの長雨に  
花咲かざれば稲穂稔らず  
雨多くひと日も蟬の鳴く聞かず  
低温のまま夏過ぎにけり  
この夏は大正二年の飢饉より  
温度低しと翁らは云ふ  
孕まざる稲穂は透きて直立す  
垂穂の無きを妻と嘆かふ  
昨年に続き今年も稲も出来悪し  
天災は二度吾らを襲ふ  
扱き終へて脱穀すれば屑多く  
米の収量劣りて嘆く  
実の成れる矮化林檎樹は早雪を  
かぶりて酷く枝々裂けぬ  
二年続き不作の打撃身に沁みて  
生活切り詰め生き抜かむとす  
柏木堰 (佐藤多次郎)

### 川柳結社「藤崎紫柳社」について(2)

藤崎に川柳の会が出来たのは、昭和四年(一九二九)頃だという。これは結社の大先輩である町内、館川町の故文茶(藤本文三)さんが元気であった頃直接聞いたことである。町内の川柳好きが集まり時々句会を開いており、昭和六年に正式に結社を設立したとのことでした。

下町にある浄土宗のお寺、撰取院の位牌堂に一架の額が掲げられてある。額面を見ると昭和九年とあり、南石さんという人の一周忌に開かれた川柳会員の作句が書かれてある。柳人の名前を拾い読みすると、一文字、一葉、笑覚坊、影法師、軟水、文茶、多珍坊、しげるの名前が読み取れる。昭和九年(一九三四)と言えば私はまだ生まれておらず、このどなたか知ろうはずもない。そしてその額の最後に「万歳してくれ俺はさきにいく」南石と記されている。川柳の仲間である南石さんの辞世の句であると思われる。

藤崎町には昔から文化人と言われた人達が沢山居たようである。川柳結社が出来たのも県内で一番だと言われて居ります。そうして戦争混乱期、どこの結社も川柳どころじゃなくなり、昭和二十年(一九四五)やっと終戦をむかえます。数年後やつと世の中が落ち着き公民館活動が初まります。その活動の一環としてかたがの川柳人、文茶、一葉、幸人、幸花さん等句会を開くことになりました。

昭和三十年頃から、若かった同期の仲間が意気投合「藤崎川柳愛好会」なる会を四人で作ります。村上志郎(シロ)・井利葦平(幸雄)・清水川魚(稼志男)・佐藤春治でした。もちろん藤崎紫柳社にも所属してました。若気のいたりでその四人で「ぼふら」というガリ版刷りですが句会報も作り、会費は月三十円を集め、句会は各々の家を持ち回りで続けました。これは自分達の仕事の都合、都会へ就職した人もあったから、ガリ版印刷「ぼふら」の編集人である井利葦平(幸雄)さんは書道にも長く「幸洞」という雅号を持っていました。紫柳社八十周年記念誌「去来行雲」の題字も彼が書いたものです。いろいろなことがありましたが、仲間同志また一度に句会を開くことになり、主幹は一葉、文茶、幸人と続き、仲間も次第に増えていき、文坊、みつ、熒川、藤人、伝蔵、朗人、招人等でした。会場は藤崎国民学校(藤崎小学校)の裁縫室或いは藤崎公民館の大広間の畳のある部屋でした。

訂正 前号の中に誤字が3箇所ありました。  
①千葉鉄男が千島鉄男に、②三百号が四百号に、  
③写真説明の福井が藤井になります。

### 古文書に学ぶ (5)

【百姓往來絵抄】江戸書林版 ⑤

土手堰 罫語 関板 羽口  
を以て年々村方之物入  
を可分別者也肥去  
下齒馬糞踏み草干

#### 原文

#### 読み下し文

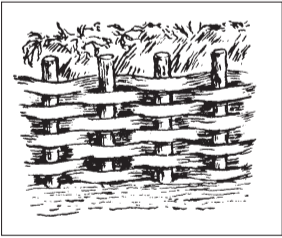
土手堰 罫語 関板 羽口  
罫語 逐一目論見帳  
を以て年々村方之物入  
を可分別者也肥者  
下齒馬糞踏み草干

土手堰 罫語 関板 羽口  
罫語 逐一目論見帳  
を以て年々村方之物入  
を可分別者也肥者  
下齒馬糞 馬踏草 干鰯

先回から災害にあつたての注意事項や災害後の修理や復旧について書かれていました。今回はその続きになります。それは災害の起こることを想定し、村々で必要とされる出費を考えて置くべきであるといっている。具体的には肥料は下肥・馬糞・馬踏草・干鰯などを準備する事を説いている。

#### 語句の説明

水路の食い違いを直し水量を確保する。  
堰の水量を調節する板と思われる。  
土堤の傾斜面(法面)。木や竹を用いて堰などを補強する。  
心積もりや計画を記録した帳簿。  
物品購入の費用、出費など。



堰 (広辞苑)

### ◆ 歯なしの話 110 ◆

—あの日何をしていた— 佐藤透

先日、各テレビ局では、東日本大震災・津波関連の特集番組を流していた。さて、ところで皆様はあの時、(10年前の3月11日、午後2時半前後)何をなさっていましたか? 覚えてますか?  
東京北区在住の私の叔父は、丁度赤羽の橋の真ん中を車で通過中であった。横に強く揺られ、死ぬかと思ったそうである。案外と震源地から離れた場所でも、地震波の具合では被害があつたようである。前に述べたことがあるかもしれないが、私はとうとう丁度治療のための麻酔を打ち終り歯の神経を抜いたところだった。これが5分遅かつたらこの患者さんは停電が解消し治療が可能になるまで、疼痛と戦うはめになったであろう。後々、この患者さんとは当時のことを思い出しては、ラッキーだったと語りあつたものである。私の所ですらこんな状況だったのだから、多くの医療施設をはじめ・電気・ガス水道等を使っている所では、皆さんどれだけ大変だった事かと思うばかりである。

でもそんなこんなで10年を経て一応落ち着きを取り戻した被災地も大分復興が進んできているようである。何十年間に一度の大地震と津波は歴史的に繰り返されていることなので、それによって少なくとも悲惨な状態にはならないような場所に街づくりがでないものか心配するばかりである。

日本は非常に災害の多い国である。地震・火山の噴火・豪雨による水害なども現実的には考慮しないといけないものかもしれない。富士山や岩木山は江戸時代に噴火している。地球の歴史からすると五十年百年はあつという間である。次に再びやって来るのはすぐかもしれない。

— 備えがあれば憂いなし —

### ◇◇◇ 俳句 ◇◇◇

- 鳴海 艸人
- 片陰のなき道ますます昼散歩
- 枯れ葉カラカラ十六分音符の春
- 宮の杜ひとときわ高きゆり若葉
- 距離伸ばす紙飛行機なり松みどり
- 海野比呂子
- 木崎 道子
- 清水稼志男